

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270101837		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム・滑石	ユニット名	
所在地	長崎市滑石6丁目5番75号		
自己評価作成日	2022年 12 月 12 日	評価結果市町村受理日	2023年 3 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijevosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2022年 12 月 28 日	評価確定日	2023年 2 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの食堂やリビングからは、庭を眺める事ができ、四季折々の草花を見る事ができ、四季を感じる事ができます。入居者の方々には、洗濯たみ・洗濯干し・小鉢の盛り付け・味噌汁づくり等、入居者ができる事を一緒に手伝って頂き自立支援を目指しています。自立支援や自己決定を行って頂く為、不定期でデリバリーデーを設け、地域のお食事処より入居者の皆様が、メニューを見て食べたい物を決めて頂き、色を楽しんで頂いたり、入居前によく行かれていた、お酒屋さん職員と一緒にノンアルコールビールを買いに行ったりと、地域との繋がりも大切にしています。その他、ドライブや散歩・月に一回おやつ作りなども行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム・滑石”は、2021年4月に「グループホーム秋桜」のサテライトになると共に、2022年1月から新管理者・新リーダーが就任している。法人の業務改革も継続し、「無理・無駄・むら」の解消のための現状分析が行われ、介護職の専門性が発揮できる業務改善を続けてこられた。住み慣れた地域で過ごして頂けるよう、感染対策を行いながら近くの公園に行かれたり、信仰する教会まで散歩することができた方もおられる。行きつけの酒屋で買物をされる方もおられ、地域交流の機会が作られている。生活習慣や特技を把握し、ご本人のできる役割を担って頂いており、好きなピアノを弾かれたり、愛用の椅子で読書を楽しまれる方もおられる。職員が持参した菖蒲や薔薇の花、ミカン等を湯に浮かべ、入浴の時間を楽しまれたり、夏祭りではわたあめ作りを楽しまれ、「懐かしい」と好評であった。家族との情報交換も大切にされており、感染状況に応じた面会方法を検討し、窓越しに家族と面会したり、テレビ電話でお話できる機会も作られている。今後も更に家族との情報交換を行い、介護計画の話し合いの機会を増やしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、玄関や事業所に掲示してご家族や職員の目に入りやすいようにしている。運営方針や内容は事業所に掲示している。事業方針や目標は、年度初めに会議内で職員間で共有している。	事業運営方針に「住み慣れた地域で暮らし続けられるように」という言葉があり、コロナ禍も地域の教会にお連れしたり、行きつけの酒屋に買物に行かれた方もおられる。2021年4月に「グループホーム秋桜」のサテライトとなり、2つのホーム共通のケア理念『「幸福感」笑顔で自分らしくゆったりとありのままでの生活』が作られ、日々の生活の中で実践に向けた取組みを続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でお祭りや地域の行事へは参加できていないが、地域にあるお食事処を利用したり、お酒屋さんへの買い物などを行っている。	開設以来、地域交流を続けてこれ、コロナ禍も地域コミュニティ等に職員がボランティアで参加している。地元の食事処や寿司屋からの宅配を利用したり、酒屋に買い物に行かれる方もおられる。コロナ前は滑石保育園の遊戯会や運動会の見学を行ったり、ホーム内で「学童ひまわり」の子ども達や大園小学校との交流を続けていた。	感染状況に応じて地域交流を再開し、地域行事のみでなく、老人会や婦人会、子ども会などのイベントや会合に参加したいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に民生委員の方に地域の情報を頂いたりしている。現在、自立支援への取り組み等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1っ回実施しているが、書面での開催となっている。日々の活動や消防訓練など、写真などを掲載し、意見交換等を行っている。	コロナ以前は、年数回、系列ホーム「秋桜」と合同開催していた。2020年以降はコロナ禍で対面開催できず、書面会議が行われている。参加者から「写真や文章だけでは会議内容がわかりにくい」と言うご意見があり、補足の文章と一緒に送付している。外部評価結果も報告し、「今回の評価を通して見えてきた良い点・反省点がそれぞれあると思いますので、今後のサービスに活かして頂ければと思います」というメッセージを頂いた。参加者からの返信内容は、次回の会議の際に書面で紹介している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重症事故発生時には、市役所へ重傷事故報告書を提出し、電話にてご指導いただいている。加算の事など、質問・相談がある場合も連絡を取り合っている。	「グループホーム滑石のサテライト化」に伴い、市役所に相談したり、2022年1月に新管理者が就任し、ご挨拶をしている。運営推進会議の開催（書面開催）を含め、コロナ禍における感染対策など、様々な情報提供を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのマニュアルは作成している。18時～翌7時（夜間帯）は施錠しているが、日中は開錠しいつでも出入りができる環境である。玄関にはドアベルと人感センサーチャイムを設置している。	法人全体で身体拘束ゼロ・虐待防止委員会を開催している。職員個々が記載する「身体拘束に関するチェック表」の確認等を行い、委員会メンバーが各事業所を訪問し、ケア内容の確認が行われている。勉強会も行い、不適切ケアの振り返りを行っている。ご本人の行動障害の原因分析とケア内容の検討を行い、安心した生活となるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を守るチェックシートを記入し振り返りを行っている。居室以外は閉鎖された空間はなく、物音や声には気づきやすい環境である。特に言葉による虐待がないよう声を掛け合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会が少なく、これまで活用する機会がほとんどなかった。権利擁護について学ぶ機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者が契約書と重要事項説明書を説明している。ご家族の不安が残らないよう疑問点などを確認しながら説明し、ご理解頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは、面会時にご要望やご意見・思いなどを伺っている。玄関先にご意見箱を設置している。	2019年まで、家族懇談会で家族交流が行われていた。コロナ禍は感染状況に応じた面会方法を検討しており、LINE電話、窓越し面会、玄関先でアクリル板を通しての面会、居室での面会（15分）が行われている。テレビ電話をする事で安心される入居者もおられる。今後、運営推進会議の会議録を含め、写真も郵送していく予定である。	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>業務の中で職員通してコミュニケーションを図り、課題や気づきを出し合っている。</p>	<p>2021年4月から「グループホーム・滑石」は「グループホーム秋桜」のサテライトになっており、秋桜・滑石合同会議が毎月行われている。リーダー制度もでき、2022年1月から新管理者・新リーダーが就任している。職員と会話する機会を増やし、要望を引き出すように努めてこられ、ケアカルテと連絡ノートを活用し、職員間の情報共有をしている。日々の業務の中で「無理・無駄・むら」が無いかを確認し、「薬局を一元化」「シーツ業者を変更」「掃除を委託」など、仕事の効率化に繋げている。介護職員の専門性を保てるように努め、入居者に向き合う時間が増えている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務時間や勤務日など職員と話し合いながら勤務表を作成している。休憩の確保や出来るだけ残業なく退勤できるよう声を掛け合っている。希望休や有給休暇も取得出来ている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加は促しているが、人員不足などにより研修への参加ができていない。研修への参加で知識を増やしたり、情報収集を行う必要がある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新人職員の研修は本部を中心に実施している。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人やご家族と話をし、不安なことや要望などを確認している。ケアマネにも事前に話を聞き、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い、不安なことや要望などを伺っている。グループホームの長所や短所・リスクなどを具体的に説明している。安心して生活できるよう関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族のニーズを確認し必要な支援が提供できるよう情報収集に努めている。ほかのサービスが必要な場合は、紹介や提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のニーズを引き出し、安心して生活できるよう支援している。一緒にできる事を行って頂いたり、入居者とゆっくり会話できる環境を作るよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時やラインなどを活用し日頃の様子を伝えている。家族の意向や思いを聞き、できるだけ添えるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からのなじみの場所や行きつけの店など、職員と一緒にではあるが外出して頂き、地域との関係性を大切にしている。	日々の生活の中で生活歴を把握し、家族にも教えて頂いており、家族等に年賀状や手紙を送っている。入居前からの行きつけの酒屋に、職員と一緒にノンアルコールビールを買いに行かれたり、近くの滑石教会に散歩に行き、顔見知りの方と再会できた方もおられる。今後も感染状況に応じて、お墓参りや馴染みの喫茶店にお連れできればと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の相性などを考えながら、食堂の座席等を検討している。行事などを行い入居者同士の関係性を深めている。		

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで一度退去された方も退院後また戻りたいなどの話を頂き、実際、顔なじみの関係やなれた環境を希望され再入居されたケースがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23 (9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のペースを尊重し入居者の希望や思いを把握するよう努めている。（一番のお風呂・個別の洗濯等）	生活歴や趣味、好み、生活習慣等を把握している。これまでの生活が継続できる事を大切にされており、入居後次第に落ち着かれる方が多い。「家族に会いたい」「外出したい」「家に帰りたい」等の願いを伺い、感染対策をしながら、願いを叶えられるように努めている。面会時や電話、LINE等で、家族の意向や要望・思いなどを伺っている。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で生活習慣や好きなことを聞くようにしている。入居者台帳やアセスメントシートを活用し、情報共有している。	
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態や様子を見ながらできる事を提供している。毎日のバイタル測定や排泄の间隔・食事量などの把握を行っている。「ケアカルテ」を活用している。	
26 (10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中でご本人の思いをケアプランに取り入れたり、ご家族より意見や要望を伺っている。よく職員同士で入居者について話を行っている。モニタリングはケアカルテで毎日実施している。	自立支援に向けた取組みを続けてこられた。入居前の情報収集を行い、要望などを聞きながら計画を作成している。2表の援助内容も細かく、「歩行運動」「洗濯物たたみ」「散歩」「ピアノを弾く」等も盛り込まれ、「ご本人」「他のご利用者」も担当者として記入されている。モニタリングも毎日行い、体調変化に応じて見直しが行われている。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテを活用し入居者の個別記録やモニタリングを毎日実施している。いつもと違う様子や活動など、細かく入力できている。	①今後もアセスメント時に、「できること」「できそうなこと」「各活動の要望」等を増やし、短期目標を具体化していく予定である。 ②アセスメント日と計画作成日（目標開始日）の整合性が図れるよう、計画作成のプロセスを見直していく予定である。 ③介護計画作成に際し、家族との話し合いの機会を増やしていく予定である。

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービス（訪問マッサージ・訪問カット・歯科往診等）を入居者の要望に応じ対応している。重度化に向けてリフト浴などの検討も行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科が必要な方は定期的に往診して頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、受診同行はご家族へ依頼している。遠方や車いす使用の方に関しては職員が同行。主治医へ入居者の情報を細かく伝え、連携が図れるように取り組んでいる。	入居前のかかりつけ医に受診でき、希望時はホームの協力医療機関に変更されている。日々職員が入力するケアカルテ（タブレット）の情報を訪問看護師も共有し、必要な指示を受けている。主治医への情報提供も適宜行い、早期対応に繋げている。2022年4月から薬局を一元化し、薬剤師との連携を密に行うと共に、QRコード（職員・入居者・薬袋）管理を行い、誤薬予防に繋げている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携している。週1回訪問あり、日頃の様子や特変などを報告している。24時間体制で対応しており、特変時は連絡し助言や指示を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、ご家族や病院のワーカーと連携し入居者の状態確認や退院の調整を行っている。可能な限り再入居できるよう連絡調整を行い連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成29年4月より看取りケアを実施している。主治医や訪問看護ステーションとの連携を図りながら、入居者の情報共有や関係作りを行っている。ご本人やご家族の思いを日頃から確認するように心がけている。	家族に「ホームでできる事・できない事」や「看取りケア」の説明をしている。「最後までホームで」と願う方もおられ、食事が入らない時は主治医に相談し、訪問看護師から点滴が行われている。主治医と訪問看護師との情報交換が行われ、訪問看護師から家族に説明をする場合もある。コロナ禍も家族と過ごせるよう、庭側の和室に居室移動が行われ、庭から家族に訪室して頂いたり、神父様も訪室し、最期の時間を過ごされた方もおられる。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはすぐに対応できるよう、マニュアルや緊急連絡網を作成している。救命救急法の訓練を受けたり緊急時の対応ができるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災訓練は毎月一回実施。初期消火・誘導訓練・通報・通煙などの自主訓練。昼間・夜間想定での訓練を実施。年1回は北消防署立ち合いで訓練実施。法人内に防災委員会があり、火災・地震・土砂災害・防犯などの訓練を行っている。	毎月の訓練で、消火器の位置確認・防災等のDVD鑑賞を行い、2022年3月の訓練時は、消防署・ユアライフ職員などと一緒に夜間想定で行われた。災害に備えて飲料水(2ℓ×12本)を準備しており、法人の栄養士が災害時の備蓄用の献立を作り、レトルトカレー等を含めて10日分を準備している。ハザードマップ上、土砂災害想定エリアになっており、豪雨の状況に応じて系列施設に避難している。BCPも作成中で、2023年には完成予定であり、実践に繋げていく予定である。	2022年1月から、管理者・リーダー含めて新体制になっており、ホームが入るリッチ滑石(アパート)の建物内で火災が発生した際の対応を確認する予定である。玄関から右側の居室は庭に直接避難できるが、左の居室は2階になるので、今後あらためて避難に関する地域連携の状況や、消防署からのアドバイスを再確認していきたいと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守る行動計画書を作成し利用者を尊重した対応ができていますか各職員でチェックシートを記入している。	「尊厳を守る行動計画のチェックリスト」を記載し、職員個々の言葉遣いを振り返る機会にしている。法人内で接遇マナーアップ宣言があり、自己チェック(年6回)をしており、傾聴・受容・共感を基本とし、一人一人に合わせた優しい声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃よりいろいろな時にご本人の要望を聞くよう心掛け要望あれば随時実施できるように働きかけを行っている。ご家族の協力も依頼している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は入居者の希望の場所・時間で提供できるように対応している。散歩や外出等、時間帯によっては希望に添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2回の入浴を実施している。2から3か月毎に訪問カットも実施している。ご自分で化粧などされる方もいらっしゃる。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものや食べれない物は別メニューで提供している。食事の量や形状も個々に合わせて対応している。	2017年から副食は厨房で作られている。栄養バランスに配慮し、季節に応じた食事が作られ、青魚などが苦手な方は、白身魚に変更したもの等が届いている。厨房から鍋で届くため、入居者も一緒に盛り付けを行い、下膳、食器洗い、食器拭き等を手伝って下さる。ご飯と汁物はホームで作り、おやつ作りも一緒に楽しんでいる。今後も「食レク」等を含め、入居者の役割を増やしていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を行い、好みや量などの把握に努めている。複数の飲み物を用意し、入居者の飲みたい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者にあった口腔ケア用品を使用している。磨き残しなどないか確認や必要に応じ一部介助を行っている。歯科衛生士の定期検診を受けている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアカルテ導入で排泄パターンの分析が容易になった。一人一人にあった排泄パターンを把握しトイレでの排泄ができるよう支援している。	排泄が自立している方が多い。排便状況などを教えて下さる方もおられ、職員も気がけて排便後の臭気を確認している。下着を着用する方もおられ、失禁状況に応じた対策を検討中である。必要に応じて個別誘導や一部介助が行われており、ご自分の意思で排泄できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	気象時に冷たい牛乳を提供している。水分量も把握を行い少ない方に関しては、提供を促している。日中は、運動や散歩を行い排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や要望を考慮しながら臨機応変に入浴日を変更できている。湯温や湯船に浸かる時間なども入居者によって変えている。	入浴好きな方が多く、「一番風呂がいい」等の要望を叶えている。ゆっくりと湯船に浸かり、昔話をされている。必要な箇所にすべり止めマットを追加し、できる範囲は洗っている。職員が持参した菖蒲や薔薇の花、ミカン等を湯に浮かべており、男性の入居者も喜ばれている。今後はリフト浴を設置していく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じた、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食堂や居室・リビングは常に解放されており、ソファなども活用し好きな場所で自由に休んだり、本を読んで頂いたりできるようにしている。週一回のシーツ交換を行い衛生的な環境も維持している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服やっくんを導入し、服薬に対する事故は少なくなっている。必ずその時間帯の薬のみ薬箱より取り出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯たたみ、居室の掃除・食事の盛り付け等、できる事を提供している。気分転換で散歩やレクリエーション・体操なども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	近くの公園に散歩や庭に出て花を摘んだり、車で車窓ドライブなどを実施している。	近くの公園やユアライフの周囲を散歩されたり、あぐりの丘で秋桜見学を楽しまれた。行きつけの酒屋でノンアルコールビールを購入される方や、以前から行かれていた滑石教会にお連れできた方もおられる。コロナ以前は、ランタンや花見、おくんち、地域行事、系列施設の行事、紫陽花祭り、認知症カフェ（滑石地区）等に参加したり、黒埼永田湿地自然公園、西海橋、護国神社などをドライブされていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金や貴重品はお預かりしていない。入居者が買い物時は立替金にて購入している。契約時に説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族より要望があった場合は直接の電話やライン電話で顔を見て話して頂いている。携帯電話を持っている方もいらっしゃる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり行事に応じた飾りつけを行っている。時間での換気や空調を使用し、不快にならないようにしている。	リビングから外の緑の木々を眺めたり、庭に出る事もでき、お花を摘んで飾っている。マッサージ器が使われたり、ピアノを弾かれる方もおられ、愛用の椅子をリビングに置き、ゆっくりとテレビを見られる方もおられる。洗濯物たたみを一緒に行い、廊下で歩行訓練をされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに足マッサージをセットしゆっくりと実施されたり、廊下の突き当りにソファを設置し、ゆっくり本などを読んで頂けるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が持ち込まれているものを優先して使用している。仏壇やご家族の写真など職員と一緒に飾ったりしている。	和室と洋室がある。クローゼットと鏡を備え付け、2022年度は全居室に電動ベッドを導入した。タンス・椅子・カレンダー等を持ち込まれ、植物や家族の写真も飾られている。仏壇に手を合わせ、読経される方もおられる。居室にテレビの配線がなく、家族が持参したDVD鑑賞をされたり、庭を見ながら、家族が持参する本や雑誌を読まれる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングにはソファや足マッサージ器があり、くつろいで過ごせる空間を作っている。		